

# 水虫について

朝霞台中央総合病院  
皮膚科 中山佳代子

水虫は皮膚病のなかでは湿疹に次いでポピュラーな病気です。今回はその水虫の症状、治療を中心に述べます。水虫とは白癬菌というカビの一種が皮膚に寄生して起こる感染症です。この白癬菌は、皮膚の外側をおおっている角層や毛・爪に含まれるケラチンというタンパク質を栄養としているので、足以外にも体中の皮膚や毛、爪に寄生します。大人の病気と思われがちですが、子供がかかる場合もありますし、最近ではブーツの流行に伴い若い女性にも多く見られます。

## ○ 診断方法

白癬と診断するためには患部の一部をピンセットや爪切りで採って、顕微鏡で観察します。ほとんど痛みを伴いませんし、5分位で結果が出ます。

## ○ 足白癬について

「水虫」はじくじくして痒いというイメージがありますが、必ずしもそうとは限りません。足白癬には趾間型、小水疱型、角質増殖型の3タイプがあります。

趾間型：ユビの間が赤くなって皮がむけたり、ただれてじくじくしたり、皮膚が白くふやけます。

小水疱型：足の裏や側面に、痒みを伴う細かい水疱ができます。この小水疱は日が経つと乾いてかさぶたになります。

角質増殖型：足の裏全体がガサガサして厚く硬くなります。踵がひびわれることもあります。年齢的な変化、あるいは痒みを伴わないために「肌荒れ」と見過ごしている方も多いようです。

## ○ 爪白癬について

爪が厚くなり、濁ったり変形します。ほとんどの爪白癬は足白癬の治療を行わなかったために、爪に白癬菌が入り込むことによって生じます。また一度爪白癬にかかると、爪が白癬菌の貯蔵庫となって菌をまき散らすため、足白癬が治らなくなったり家族にうつしたりする原因にもなります。

## ○ 治療法

### ① 外用療法

一日1～2回、患部にうすく外用します。角質増殖型足白癬の場合は、皮膚を軟らかくする外用剤を併用すると効果的です。また爪が肥厚している場合には週に1～2回、入浴後の爪がふやけている時に爪切りについているやすりで表面を軽く削ってください。硬そうにみえても実際にはボロボロとくずれるように削れるものです。

### ② 内服療法

角質増殖型足白癬や爪白癬は外用療法では治りにくいいため、抗真菌剤による内服療法を行います。稀ではありますが肝機能障害や貧血を伴うことがあるため、内服療法開始前と服用中に血液検査を行います。また併用できない薬剤もあるため、必ず現在服用している薬を提示して下さい。

最後に水虫治療のポイントですが、何といても根気よく続けることが大切です。角化型足白癬や爪白癬では、治療を始めて最初の1～2ヶ月は改善傾向を自覚しにくいものです。あきらめることなく、また自己判断で治療を中止することなく水虫を完治させて下さい。

